



▶ 10年後の中央通り線（イメージ）

「駅前」の街路樹を『日本一の街路樹』にしたいと話をさせていただいたことがありました。半分夢のような話でしたが、わたしの話に共感した。

普段は造園業を営み、植栽の施工や樹木の剪定などの仕事をしている押田さん。プロジェクトの立ち上げ、NPO法人設立について伺いました。

NPO法人の設立

Pick Up! /
NPO法人寄居の緑と空間を楽しむ会
代表理事
押田大助
さん

「昔、市街地は今よりも樹木が茂っていたため、荒川の水も今と比べきれいだっただように思います。市街地に街路樹があることで、水脈をつなぎ、川がきれいになったり、根が地形を支えることで災害対策

街路樹の役割

「街路樹の維持管理は長期的に行っていく必要があります。そこで維持管理を継続できるようにNPO法人を立ち上げることにしました。令和4年3月に緑の会を設立し、現在20人のメンバーで活動しています。地元企業や造園業者のサポートを受けながら、街路樹の維持管理を行っていきたいと考えています」



「ただただの方がいっぱいでした」

その後、押田さんは街路樹の種類の選定など、プロジェクトを形にしていきました。



都市計画道路中央通り線を2車線化

テープカットとともに風船を飛ばしてくれた寄居保育所の皆さん



町では、7月4日午後3時、都市計画道路中央通り線の開通式を挙行しました。花輪町長は「中央通り線車道部が無事完成し、開通を迎えられたのも、ひとえに貴重な用地をご提供いただきました皆様や工事にご協力いただきました沿線の皆様のご理解のおかげであり、深く感謝いたします。今回の開通により、中心市街地の賑わい再生への大きな一歩になると期待しています」とあいさつしました。

式典後、中央通り線の一方通行規制を解除し、2車線による相互通行が可能となりました。今回の開通により、町の玄関口である寄居駅南口と玉淀河原が一直線で結ばれ、アクセス向上や中心市街地の回遊性向上が見込まれます。

引き続き、町では、歩道部や植栽などの整備を行うとともに、来春オープン予定の寄居駅南口駅前拠点施設等の整備工事を着実に進めるなど、中心市街地活性化事業のハード整備総仕上げに向け、「歩きたくなくなる・歩いてお得なまち」を目指して事業を推進していきます。

岡都市計画課
☎5812121内線241

「なったりします」

街路樹には、ほかにも夏の緑陰の確保や生態系の保全、雨水を地中に浸透させることによる洪水防止等の役割があるといえます。



▶ 市街地付近を流れる荒川

在来種を中心とした寄せ植えの街路樹

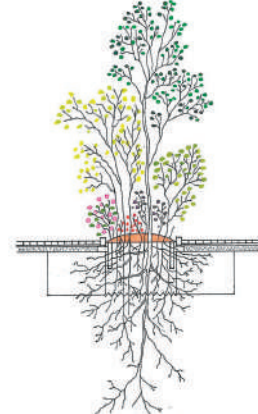
中央通り線の街路樹のコンセプトは在来種を中心とした寄せ植え。この手法を街路樹に用いることは全国的にも珍しい取り組みとなります。

「寄居の山の木々をそのままもってきたようなイメージです。例えば鐘撞堂山から荒川までは、市街地を経由するため自然が分断されてしまっています。そこで、寄居の山に自生している木々を街路樹として植栽することで、寄居の山の『森』をそのまま再現し、水脈や動物の中継地点となると考えています」



町は5月に、NPO法人寄居の緑と空間を楽しむ会（以下、緑の会）と「寄居都市計画道路中央通り線における街路樹維持管理協定」を締結しました。協定では、緑の会が街路樹の点検や落ち葉の清掃、剪定などの日常的な維持管理作業を実施し、町は清掃用具等を貸し出すなどの必要な支援を行うこととしています。官民が連携し、街路樹の維持管理を行っていくことは全国的にも珍しい取り組みとなります。

緑の会は、現在「よりいの街路樹づくりプロジェクト（以下、プロジェクト）」として中央通り線の街路樹の樹種や管理方法の検討を進めています。今回、緑の会の代表理事を務める押田大助さん（用土3）に話を伺いました。



▶ 寄せ植え街路樹（イメージ）

プロジェクトが描く10年先の未来とは

押田さんに中央通り線の10年後の姿について伺いました。

「四季折々、楽しめる街路樹となっていると思います。街路樹を見るために訪れる方が多くなり、中心市街地のお店も増え、住民も増え、賑わいの創出につながると考えています。緑のトンネルができて、それこそ『神宮外苑』のような街路樹の名所になってほしいなと思っています」

町と緑の会では、官民が連携して街路樹の適切な維持管理を行い、10年先の未来を描き「よりいの街路樹づくりプロジェクト」を進めています。